

管理栄養士の地域連携における役割とネットワークづくり

The role of the registered dietician in collaboration in Mimasaka area, and networking between registered dieticians

多田賢代*1・保田芳枝*2・藤井わか子*3

Takayo Tada, Yoshie Yasuda and Wakako Fujii

1. 研究の背景

平成 17 年改正介護保険法の施行、平成 18 年診療報酬改定により、施設入所者や入院患者の個人個人を対象とした栄養管理が実施されるようになり、平成 20 年度 4 月からは、「高齢者の医療の確保に関する法律」に基づく特定保健健診・特定保健指導が実施され、特定保健指導の中核を担う者として、医師・保健師と並んで管理栄養士が位置づけられ、これらにより、福祉、医療、保健等の広い分野において、管理栄養士による栄養ケア・マネジメントが展開され、健康づくり推進にむけて重要な役割を果たすことが求められるようになった。こうした社会のニーズに応えるために、管理栄養士は今まで以上に、常に勉強し高い資質を備えることが必要となっている。

また、特定保健指導では、メタボリックシンドローム該当者または予備軍に対して介入を行うこととなり、生活習慣病予防の成果をあげるべく任務を管理栄養士が担うこととなる。この目標を達成するためには、地域における健康づくり推進が益々求められ、地域における管理栄養士の活躍が期待される。また、20 年度診療報酬改正においても、在宅医療に対する配慮による見直しがあり、

在宅訪問栄養指導、後期高齢者退院時栄養・食事管理指導等積極的に取り組まれていくことが予想される。地域と連携し、また職域を跨いだ管理栄養士同士のネットワークをつくることが重要課題となっている。

そこで、県北唯一の管理栄養士課程をもつ本大学が起動力となり、津山を中心とした美作地域の栄養士・管理栄養士が地域住民の健康づくり推進における地域連携を図り、ネットワークづくりに貢献し、その成果をあげていくことが望まれる。

2. 研究の目的

前述にあげたように社会のニーズに応えるため、栄養士・管理栄養士は常に新しい知識や技能を養い、地域連携における役割を果たしていくためにも福祉、医療、保健等の職域を跨いだネットワークをつくることが課題であり、美作地域においては本学が中心となってこの課題に取り組み、管理栄養士による地域と連携した健康づくり推進を実現していくことを目的としている。

*1 美作大学生活科学部 食物学科 准教授・博士（学術） Assoc. Prof., Dept. of Food Sciences, Mimasaka Univ., Ph., D.

*2 美作大学生活科学部 食物学科 准教授 Assoc. Prof., Dept. of Food Sciences, Mimasaka Univ.

*3 美作大学短期大学部 栄養学科 教授・博士（医学） Prof., Dept. of Nutrition Sciences, MIMasaka Junior College, M.Ph.D.

3. 研究の方法

卒業生を含む美作地域の栄養士・管理栄養士を募り、以下の活動を行う。

- ①特定保健指導に関する講演会や自主勉強会の開催
- ②在宅介護に関する講演会や自主勉強会の開催
- ③在宅訪問栄養指導など在宅医療に関する講演会や自主勉強会の開催
- ④地域型NSTについての講演会や自主勉強会の開催
- ⑤地域連携による健康づくり推進についての現状調査および情報交換
- ⑥地域連携による健康づくり推進における活動報告会の開催

①～④では、県内外からその分野の有識者を講師として招いて講演会を行い、⑤～⑥では、卒業生の含む美作地域の栄養士・管理栄養士自らが行うよう意識の啓発を行う。

4. 研究の内容

4. 1 講演会・勉強会および情報交換会・活動報告会の開催

美作地域の栄養士・管理栄養士を対象として、講演会7回、本学教員からの情報提供による勉強会2回、情報交換会・活動報告会1回の計10回を開催した。開催日程、開催テーマおよび参加者人数を次項の表に示す。

4. 2 美作地域の栄養士・管理栄養士に対するアンケート調査

美作地域の栄養士・管理栄養士を対象として、アンケート調査用紙を郵送し、FAXにより回答を返信してもらい、67人の回答が得られた。

アンケート調査の結果、「日ごろ業務の中で地域連携の重要性を感じている」との回答が67人中57人(85.1%)あり(図1)、「地域連携において栄養士・管理栄養士の果たす役割は大きく、積極的に取り組もうと思う」との回答は67人中32人

(47.8%)、「果たす役割は大きいですが、役割を果たすことは困難だと思う」との回答は23人(34.3%)となっていた(図2)。このことから、地域連携における栄養士・管理栄養士の果たす役割についての認識は高まっており、資質の向上や情報交換のための場が今後さらに必要となることが窺われた。

5. 今後の課題

栄養士・管理栄養士が勤める職域は、幼稚園・保育所、学校給食、高等学校、会社の給食施設、外食産業、福祉施設、病院と広い分野に跨っており、子どもから高齢者まで各ライフステージ関わっている。したがって、地域の健康づくり推進において、栄養士・管理栄養士同士の職域を跨いだ連携をしっかりとることが重要であり、そのためには美作地域唯一の管理栄養士養成校である本学の役割は大きい。来年度も本年度と同様に講演会や自主勉強会、情報交換会や活動報告会を継続して開催し、美作地域の健康づくり推進のために栄養士・管理栄養士同士のネットワークづくりにおいて一助となるよう貢献していきたい。

謝辞

今回の講演会におきましては、多くの先生方のご指導のもと、開催することができました。

また、栄養士会津山支部、真庭支部、勝英支部のご協力をいただき、多くの栄養士・管理栄養士の皆様からアンケート調査にご回答いただきました。本研究を進めるにあたり、ご指導、ご協力いただきました皆様方に厚くお礼申し上げます。

美作地域栄養士勉強会 開催日程・テーマおよび参加者人数

年月日 (曜日)	テーマ	講師	参加人数 (人)
平成 20 年 6 月 18 日 (水)	情報提供「各学会ガイドライン について(学会報告を交えて)」	美作大学 本会 世話人	17
7 月 23 日 (水)	「健康教育と運動」	東京理科大学 教授 丸山 克俊 先生	29
8 月 20 日 (水)	「地域福祉における多職種 連携について」	美作大学 福祉のまちづくり 学科 教授 小坂田 稔 先生	13
9 月 17 日 (水)	「生活習慣病に対する 当センターの取り組み」	岡山県南部健康づくりセンター センター長 沼田 健之 先生	17
10 月 22 日 (水)	「口腔ケアにおける多職種 連携について」	津山中央居宅介護支援事業所 ケアマネージャー 杉山珠美様	15
11 月 19 日 (水)	「小児肥満の治療とその対応 について」	京都府立医科大学 小児科 藤原 寛 先生	15
12 月 17 日 (水)	「期待される地域連携ー在宅 訪問栄養指導の取り組みー」	あいの里クリニック次長 栄養管理部部長 森光 大 先生	18
平成 21 年 1 月 22 日 (木)	情報提供 「美作地域における食育」	美作大学 本会 世話人	10
2 月 17 日 (火)	「期待される地域連携 ー地域NST活動の実際ー」	近森病院 栄養科長 真壁 昇 先生	18
3 月 21 日 (土)	情報交換会 「期待される地域連携」	美作地域の栄養士様	33
(合計)			185

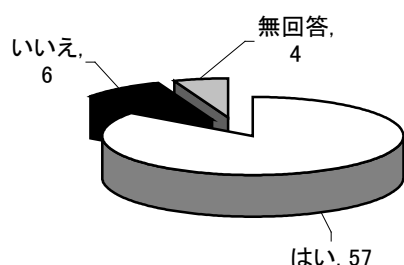


図1 地域連携の必要性

「現在、業務の中で地域連携の必要性をお感じになることがありますか？」

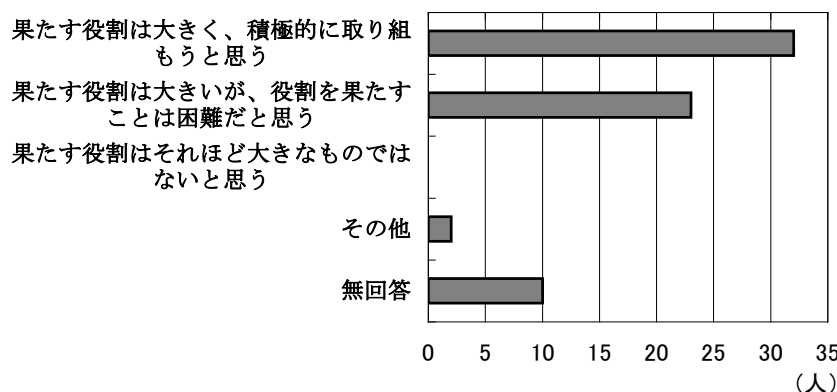


図2 栄養士・管理栄養士の果たす役割について